

平成 30 年 7 月 31 日
記者発表資料

平成 30 年度全国学力・学習状況調査 神奈川県公立小・中学校の調査結果(速報版)について

平成 30 年 4 月 17 日に実施された全国学力・学習状況調査の神奈川県の結果(速報版)をまとめました。なお、調査結果の詳細版については、県教育委員会で分析した後、10 月中旬頃に公表します。

1 調査の概要

- 小学校は第 6 学年、中学校は第 3 学年が対象
 - 次の 3 種類の調査を実施
 - ・ 教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科)
 - A : 主として「知識」に関する問題
 - B : 主として「活用」に関する問題
 - ・ 学校質問紙調査
 - ・ 児童生徒質問紙調査
 - 参加規模は次のとおり
 - 参加校数 小学校調査 863 校 (小学校 853 校、特別支援学校 小学部 8 校、義務教育学校(前期) 2 校)
 - 中学校調査 420 校 (中学校 408 校、特別支援学校 中学部 8 校、中等教育学校 2 校、義務教育学校(後期) 2 校)
 - 参加人数 小学校調査 約 7 万 3 千人、中学校調査 約 6 万 4 千人
- <参考> 県域 (政令指定都市 (横浜市、川崎市、相模原市) を除いた地域)
- 参加校数 小学校調査 332 校 (小学校 328 校、特別支援学校 小学部 4 校)
 - 中学校調査 180 校 (中学校 174 校、特別支援学校 中学部 4 校、中等教育学校 2 校)
 - 参加人数 小学校調査 約 2 万 6 千人、中学校調査 約 2 万 5 千人

2 教科に関する調査結果の概要

(1) 平均正答数・平均正答率

※県及び県域の平均正答率は、国から小数第 1 位を四捨五入した整数値で提供された。

平成30年度	小学校調査									
	国語				算数				理科	
	A (12問)		B (8問)		A (14問)		B (10問)		A B (16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
全 国	8.5	70.7	4.4	54.7	8.9	63.5	5.1	51.5	9.6	60.3
神奈川県	8.4	70	4.3	54	8.9	64	5.2	52	9.5	60
全国との差	-0.1	-0.7	-0.1	-0.7	0	0.5	0.1	0.5	-0.1	-0.3
<参考>										
県 域	8.0	67	4.1	52	8.5	60	4.8	48	9.4	58
全国との差	-0.5	-3.7	-0.3	-2.7	-0.4	-3.5	-0.3	-3.5	-0.2	-2.3

平成30年度	中学校調査									
	国語				数学				理科	
	A (32問)		B (9問)		A (36問)		B (14問)		A B (27問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
全 国	24.3	76.1	5.5	61.2	23.8	66.1	6.6	46.9	17.9	66.1
神奈川県	24.2	76	5.6	62	23.6	66	6.7	48	17.7	66
全国との差	-0.1	-0.1	0.1	0.8	-0.2	-0.1	0.1	1.1	-0.2	-0.1
<参考>										
県 域	24.0	75	5.5	61	23.3	65	6.4	46	17.6	65
全国との差	-0.3	-1.1	0	-0.2	-0.5	-1.1	-0.2	-0.9	-0.3	-1.1

小・中学校とも全教科において、全国公立学校の平均正答数・平均正答率と大きな差は見られなかった。

(2) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上高かった設問 (全県)

小・中学校ともに該当なし

(3) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった設問 (全県)

【小学校】

※ [] は問題番号を示す。

- ・国語B 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」[3二]
- ・理科 「腕を曲げることのできる骨と骨のつながり目を表す言葉を書くこと」[1(3)]

【中学校】

- ・国語A 「文脈に即して漢字を正しく書く」(3問中1問)[8-2]
「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」[8六2]
- ・数学A 「絶対値の意味を理解していること」[1(2)]
- ・理科 「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘すること」[2(2)]
「神経系の働きについての知識を身に付けていること」[5(1)]

3 学校質問紙調査での特徴的な項目 (肯定的な回答をした学校の割合で比較)

(1) 全国公立学校の平均より高かった主な設問 (全県)

【小学校】

※ [] は質問番号、() は全国との差を示す。

- ・調査対象学年の児童に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていた。[50]

神奈川県 50.9% 全国 14.7% (+36.2)

- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行った。[54]

神奈川県 61.2% 全国 49.2% (+12.0)

- ・前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。[77]

神奈川県 78.8 % 全国 69.5 % (+9.3)

【中学校】

- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行った。[52]

神奈川県 43.8 % 全国 33.0 % (+10.8)

- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行った。[47]

神奈川県 91.5 % 全国 81.2 % (+10.3)

- ・教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行った。[19]

神奈川県 91.5 % 全国 85.2 % (+6.3)

(2) 全国公立学校の平均より低かった主な設問 (全県)

【小学校】

- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた。[69]

神奈川県 25.9 % 全国 45.7 % (-19.8)

- ・調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った。[36]

神奈川県 35.1 % 全国 54.7 % (-19.6)

- ・調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした。[35]

神奈川県 44.8 % 全国 62.0 % (-17.2)

【中学校】

- ・調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした。[34]

神奈川県 29.7 % 全国 50.5 % (-20.8)

- ・調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った。[35]

神奈川県 25.7 % 全国 45.0 % (-19.3)

- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。(国語/数学共通)。[61]

神奈川県 71.4 % 全国 87.1 % (-15.7)

4 児童・生徒質問紙調査での特徴的な項目（肯定的な回答をした児童・生徒の割合で比較）

（1）全国公立学校の平均より高かった主な設問（全県）

【小学校】

- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。[32]

神奈川県 66.5 % 全国 64.4% (+ 2.1)

- ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。[44]

神奈川県 27.9 % 全国 26.1 % (+ 1.8)

- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。[26]

神奈川県 87.5 % 全国 86.2 % (+ 1.3)

【中学校】

- ・数学の授業の内容はよく分かる。[29]

神奈川県 75.3% 全国 71.0 % (+4.3)

- ・数学の勉強は好きだ。[27]

神奈川県 56.9% 全国 53.9% (+3.0)

- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する。[14]

神奈川県 73.6 % 全国 70.6 % (+3.0)

（2）全国公立学校の平均より低かった主な設問（全県）

【小学校】

- ・家で、学校の授業の予習・復習をしている。[12]

神奈川県 55.2 % 全国 62.6 % (-7.4)

- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習している。[13]

神奈川県 62.9% 全国 69.9 % (-7.0)

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。[20]

神奈川県 57.0 % 全国 62.7% (-5.7)

【中学校】

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。[20]

神奈川県 39.2 % 全国 45.6 % (-6.4)

- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。[23]

神奈川県 47.1 % 全国 51.8 % (-4.7)

- ・理科の勉強は大切だと思う。[39]

神奈川県 66.1 % 全国 70.6 % (-4.5)

<参考> 県域（政令指定都市を除く）

2 - (2) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上高かった設問（県域）

小・中学校ともに該当なし

(3) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった設問（県域）

【小学校】

- ・国語A 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」(5問中4問)[8イ～オ]
「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」[5]
- ・国語B 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」[3二]
「話し手の意図を捉えながらか聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」[1三]
- ・算数A 「 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° より大きい角の大きさを求めること」[5(2)]
「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること」[9]
「小数の除法の意味について理解していること」[2]
- ・算数B 「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できること」[4(2)]
「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現すること」[4(1)]
「折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できること」[5(1)]
- ・理科 「腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書くこと」[1(3)]
「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること」[4(4)]

【中学校】

- ・国語A 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」[8六2]
「文脈に即して漢字を正しく書く」(3問中3問)[8一1～3]
- ・数学A 「絶対値の意味を理解していること」[1(2)]
「数量の大小関係を不等式に表すことができること」[2(1)]
「指数を含む正の数と負の数の計算ができること」[1(3)]
- ・理科 「神経系の働きについての知識を身に付けていること」[5(1)]
「地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けていること」[7(1)]
「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘すること」[2(2)]

3 学校質問紙調査での特徴的な項目（肯定的な回答をした学校の割合で比較）

(1) 全国公立学校の平均より高かった主な設問（県域）

【小学校】

- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行った。[54]

県域 64.2% 全国 49.2% (+15.0)

- ・調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う。[12]

県域 91.6 % 全国 89.4 % (+2.2)

- ・学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行った。[73]

県域 95.8 % 全国 94.0 % (+1.8)

【中学校】

- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行った。[52]

県域 46.1 % 全国 33.0 % (+13.1)

- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、長期休業期間中に自由研究などの家庭学習の課題を与えた。[67]

県域 87.8 % 全国 81.1 % (+6.7)

- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行った。[47]

県域 87.8 % 全国 81.2 % (+6.6)

(2) 全国公立学校の平均より低かった主な設問 (県域)

【小学校】

- ・調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った。[36]

県域 25.5% 全国 54.7 % (-29.2)

- ・調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした。[35]

県域 34.9 % 全国 62.0% (-27.1)

- ・全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った。[33]

県域 72.0 % 全国 94.4 % (-22.4)

【中学校】

- ・調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした。[34]

県域 29.0 % 全国 50.5 % (-21.5)

- ・調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った。[35]

県域 25.0 % 全国 45.0 % (-20.0)

- ・全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った。[32]

県域 78.3 % 全国 91.8 % (-13.5)

4 児童・生徒質問紙調査での特徴的な項目（肯定的な回答をした児童・生徒の割合で比較）

（1）全国公立学校の平均より高かった主な設問（県域）

【小学校】

- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。[26]

県域 87.0 % 全国 86.2 % (+0.8)

- ・1日30分以上読書をする。[15]

県域 41.2% 全国 41.1 % (+0.1)

【中学校】

- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。[53]

県域 56.2 % 全国 53.8 % (+2.4)

- ・数学の授業の内容はよく分かる。[29]

県域 73.0 % 全国 71.0 % (+2.0)

- ・理科の授業では、理科室で観察や実験を月1回以上行った。[46]

県域 88.4 % 全国 87.1 % (+1.3)

（2）全国公立学校の平均より低かった主な設問（県域）

【小学校】

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。[20]

県域 54.0% 全国 62.7 % (-8.7)

- ・学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強している。[14]

県域 57.7 % 全国 66.2 % (-8.5)

- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。[23]

県域 29.5% 全国 36.1 % (-6.6)

【中学校】

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。[20]

県域 39.3 % 全国 45.6 % (-6.3)

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。[10]

県域 46.1 % 全国 52.1 % (-6.0)

- ・家で、学校の授業の予習・復習をしている。[12]

県域 49.2 % 全国 55.2 % (-6.0)

問合せ先

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課
課長 宮村 電話 045-210-8212
教育指導グループ 下反 電話 045-210-8217